

FINEFINET[ファイン・ファイネット] 酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす

FINEFINET

2025
Vol.67
January

ファイネット発行

2025
New Year's Greetings

2025年

社長年頭挨拶

代表取締役社長
西井孝明

特集
1

メーカーと卸が対等の立場で協議できる会議体
酒類・加工食品業界標準化推進会議
100回記念座談会

特集
2

2024年「ファイネットユーザー会」開催
サービスの拡充、施策の強化を通じて
酒類・加工食品業界における物流の課題解決に貢献

連載1 今さら聞けないVAN・EDI

連載2 森井ユカの
スーパーマーケット漫遊記

明けましておめでとうございます。

旧年中はファイネット事業に一方ならぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2024年のわが国は、雇用や所得環境の好転、人流やインバウンド需要の活発化などにより、景気改善の傾向が見られた一方で、様々な産業において人手不足に拍車が掛かりました。また、ウクライナ情勢の長期化、中東情勢の緊迫化、さらには国内外で頻発する自然災害の影響などによるエネルギー原材料の高止まりも受けて、生産性の向上、業務の効率化の必要性がさらに増してきています。

このような状況の中で、ファイネットの果たすべき役割の重要性が一層高まっていることを日々実感しているところです。

ファイネットは、皆様のご期待に応えるべく、2025年も

「円滑なサービス運営」

「顧客満足度の向上」

「標準化推進活動を通じた業界貢献」

の3つの指標を事業目標に掲げ、計画の達成に向けて
全社一丸となって取り組む所存でございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

西井孝明





酒類・加工食品業界

標準化推進会議100回記念

座談会

メーカーと卸が 対等の立場で協議できる 会議体

酒類・加工食品業界標準化推進会議(以下、標準化推進会議)は、酒類・加工食品業界のメーカーと卸によって構成され、商取引等に関する各種情報交換業務の標準化を推進することで、業界全体の発展に寄与することを目的としています。2003年10月に第1回の会議が開催され、2024年12月に第100回を迎えました。今回は、本会議の創世記の初期メンバーであるメーカーと卸の代表にご参集していただき、当時の活動や会議の意義などについて語り合ってもらいました。(座談会開催日2024年10月2日、本文中敬称略)



牧内 孝文 様

株式会社ジャパン・インフォレックス
執行役員 総合企画部担当部長
兼 総合企画課長

柴田 昌志 様

カゴメ株式会社
東京本社 SCM本部
サプライネットワーク部

脇 信夫 様

株式会社ジャパン・インフォレックス
情報システム部 副部長

坂本 昌俊 様

株式会社Mizkan J plus Holdings
名古屋オフィス
管理本部 情報システム部
システム1課

第100回を迎える 標準化推進会議

—— 初めに当時の所属など自己紹介と、標準化推進会議が第100回の開催を迎える感想をお聞かせください。

柴田 当時は、カゴメの営業推進部に所属し、主に業務システムの開発を担

当していました。また、2000年から3年間で、ファイネットさんに出向し、標準化推進会議には2004年2月の第4回～2009年3月の第40回まで参画しました。現在は、カゴメ東京本社のSCM本部サプライネットワーク部に所属しています。

標準化推進会議を100回も続けることは大変なことです。事務局のファイネットさんは、企業間情報交換の標準化

を進める重要な役割を、継続して担われていると感じています。



柴田 昌志 様

※標準化推進会議
メンバー当時:カゴメ
(第4回2004年2月～
第40回2009年3月)

坂本 当時は、ナカノサービスの情報システム部門に所属し、標準化推進会議には、2003年10月の第1回から参画しています。会社が名古屋にあり、移動時間の制約から会議に出席できないこともありましたが、業界全体を意識した取り組みを通じ、視野が広がりました。2022年3月の第89回で標準化推進会議を卒業し、現在は、Mizkan J plus Holdings名古屋オフィスで基幹システムの保守運用を担当しています。

第100回を迎えると聞いて驚きました。メンバーや事務局のみなさんご苦労されたことと思います。



坂本 昌俊 様

※標準化推進会議
メンバー当時:ナカノ
サービス
(第1回2003年10月～
第89回2022年3月)

脇 当時は、国分で情報システム部門の仕事をしており、社外のお付き合いの相手も主に同業の卸会社でした。ところが、標準化推進会議に参画してメーカーとの関わりを始め、グローバルな視点で標準化に取り組むことになり、最初は戸惑ったことを覚えています。2003年12月の第2回～2013年3月の第56回までメンバーを務め、この間、商品識別コード検討部会長として活動しました。現在は、ジャパン・インフォレックスの情報システム部門で仕事を続けています。

標準化推進会議は、20年以上も標準コードや標準フォーマットの検討と普及推進などに取り組んでいますが、社会環境が変われば標準化の内容も変わり、完成するものではないと感じています。

牧内 当時は、トーカンの業務設計部に所属していましたが、業界標準に合わせたシステムを設計する必要があり、標準化推進会議に参画しました。2003年12月の第2回～2007年9月の第34回まで、そして2012年3月の第52回～2015年3月の第62回までメンバーを務めていました。現在は、ジャパン・インフォレックスの執行役員として、食品業

界向けの商品マスターデータベースの普及・拡大に努めています。

標準化推進会議で関わった商品識別コードの標準化は大きなテーマであり、業界としても取り組みを進める必要がありました。その時々々のテーマを取り上げながら第100回を迎え、事務局にも感謝しています。

標準化への理解

—— 標準化推進会議は、メーカーと卸が対等の立場で検討、協議し、企業の枠を超えた会議体であることが特長と聞いています。実際に当時参画してみたいかがでしたか。

坂本 本当にメーカーと卸が対等の立場の会議体だと思います。もちろん、卸や他のメーカーと競合する部分もありますが、標準化推進会議は、フラットに話し合うだけでなく、自分たちの困り事をお互いに相談するなど、非常に有意義な情報交換の場としても利用させていただきました。

柴田 標準化推進会議は、バックキャストिंगができる会議体だと思います。業界全体の目標とする未来を描き、その道筋を考える上で有意義でした。そのような場はなかなかありません。自社に戻って状況を説明する際にも、他社がどのように考えているのかの情報が役立ちました。

—— 標準化推進会議の議論の結果を自社に説明する際、どのような反応でしたか。

脇 今もそうですが、国分は、標準化推進会議に対して理解があり、苦労した記憶はありません。ただ、当時は、商品識別コードの標準化に向けた方向性の検討段階であり、実施後のことはよく分かりませんでした。また、卸とメーカーでは立場が異なり、メーカーがどのコードを利用するかによって、卸の利用するコードが決定していました。その点、メーカーは、自社にどのようなメリットをもた

らすものか、説明するのに苦労したのではないのでしょうか。



脇 信夫 様

※標準化推進会議
メンバー当時:国分
(第2回2003年12月～
第56回2013年3月)

坂本 標準化に取り組むこと自体への理解が得やすいのは確かですが、実際にこのコードを利用するといった各論の段階になると、具体的なメリットに関する説明を求められます。当時は運用が始まっておらず、情報も少なかったので社内を説得することは難しいと感じていました。

牧内 商品識別コードとしてGTIN (Global Trade Item Number) という言葉がまだ浸透していない状況の中で説明するので、自社で理解されるまで時間がかかりました。標準化されればこのようなメリットがあるといわれても、自社にどのような影響があるのかイメージできない人も少なくなかったと思います。

実際、私が所属していた業務設計部は情報システム部門を兼務しており、標準化によってシステムがどのようになるのか説明に苦労したことを覚えています。

柴田 自社も、標準化に理解のある会社ですが、具体的な話となると簡単に理解できるものではありません。実際に標準化に対応したシステムを開発する場合、さらに説明が必要になり、難しいと感じました。ただ、メーカーも卸もGTINの実現に向けた方針は一致しており、それが標準化に結び付いたと思います。

坂本 GTINを中心としたコードの取り組みについては、改めてグローバルな視点からの標準化の検討が必要になっている時流を感じたのと、メーカーとして卸にはご迷惑をかけられないといった思いもあり、自社ではGTINとは何か、といった説明から始めた記憶があります。



進化していく標準化

—— グローバル化への備えも標準化推進会議発足の目的となっていました、どのように感じていましたか。

牧内 GTINの「G」はグローバルを意味していますが、なぜ、グローバルに合わせる必要があるのか、という意見もあり、議論を重ねました。ただ、そこにこだわっているのは標準化が実現できないということもあり、グローバルな視点での標準化という論点は一旦横に置いて、商品識別コードの標準コードとしてGTINの検討を進めた記憶があります。

柴田 当時、GCI(Global Commerce Initiative) Japanにおける商品データ同期化GDS(Global Data Synchronization)の座長を務めていました。欧米中心に決めた国際標準をみんなで利用するといっても、日本には製・配・販三層など独自の商習慣があります。そこで、日本の立場から、このような標準化が望ましい、といった提言が必要ではないかと感じていました。

実際、欧米から押し付けられるものではなく、必要であれば変更を要求、いわゆるチェンジリクエストしていけばいい、と分かりました。

—— 標準化推進会議が始まってから20年以上たちましたが、標準化に対する考え方は当時と今では変わっているのでしょうか。

柴田 同じ会社でも部署によって標準

化に対する関心も異なるため、説明方法をアップデートするなど常に標準化の重要性を伝えていく必要があります。過去に標準化されたものについては定着していますが、新たに標準化されるものは社内の理解を含め、さらに検討を進めていくことが大事になると思います。

坂本 私たちの世代は標準化推進会議の取り組みを通じ、標準化の必要性を強く意識して取り組んできました。定着しつつある標準コードですが、今後も環境の変化により見直しが求められるときが来るはず。基本的に標準化により各社のデータの利活用が進み、各社の効率化と品質向上につながる事が重要です。個々の課題は異なるかもしれませんが、工夫を積み重ねていくことが大切だと思います。

脇 グローバルな標準化に対応できればいいのですが、検討を開始した当時は、そういう状況ではありませんでした。日本には独自の商習慣があり、標準化を議論するにしても、日本の仕事のやり方に合わせたものでなければ定着させることは難しい、という意識を持ちながら検討を進めていました。

牧内 当時は、標準化するとどのような利用方法があるのか、コードはどのように管理するのか、といった議論を重ねていました。

GTINについては、メーカーと卸で定着しましたが、小売りまでは定着しきれず、まだまだ皆さんの議論の余地があります。そういう意味でも標準化推進会議が取り上げるテーマもたくさん

あると思います。

—— 最後に標準化推進会議の意義や期待することをお聞かせください。

牧内 酒類・加工食品業界でも今後、様々な課題が出てくるでしょう。そうしたときに標準化推進会議のメンバーをいつでも集められる力、協議できる力を持っている意義は大きいと思います。



牧内 孝文 様

※標準化推進会議
メンバー当時：トーカー
(第2回2003年12月～
第34回2007年9月、
第52回2012年3月～
第62回2015年3月)

脇 標準化推進会議の目的にあるように、メーカーと卸が対等の立場で検討、協議できる意義は大きく、そうした場に参画できてありがたく感じています。

坂本 みなさんが言うように、メーカーと卸が対等の立場であるべき姿に向けて議論を重ねていけば、情報交換に伴う業務の品質向上につながります。さらに200回に向け、取り組みを継続していただき、新たな成果が出ることを期待しています。

柴田 酒類・加工食品業界を取り巻く環境も変化しており、様々な情報交換、意見交換ができる場を今後も提供し続けてほしいと思います。

—— 本日は、ありがとうございました。



2024年「ファイネットユーザー会」開催

サービスの拡充、施策の強化を通じて 酒類・加工食品業界における物流の課題解決に貢献



2024年10月24日、ファイネットが毎年開催する「ファイネットユーザー会」を、東京・丸の内の東京會館で開催しました。ユーザー企業113社から330名の方々が参加された今年、ファイネットの経営方針に沿った2024年度の取り組みについて皆様にご報告・ご紹介しました。



代表取締役社長
西井孝明

「開会のご挨拶」 代表取締役社長 西井孝明

「ファイネットユーザー会」の冒頭には、代表取締役社長の西井孝明が壇上に立ち、能登半島地震、奥能登豪雨で亡くなられた方へのお悔やみ、被災された皆様へのお見舞いを申し上げたのち、ユーザー会にご参集いただいた会員各位に厚い謝意を伝え、今後に向けた決意を語りました。

物流をめぐる「2024年問題」の状況は、酒類・加工食品業界にとっても切実な課題となっています。今後、物流の担い手が減少し続けることが必至となる中、ASN(事前出荷情報)データを活用した検品レスによる車両待機・荷役作業時間の削減や、納品期限など商慣習の見直し、地域物流における共同配送の促進など、各種の取り組みを続けることが、

課題解決に向けて重要です。

一方で、コストの高騰、環境負荷削減への取り組みは重要な課題となり、サプライチェーンには一層の効率化が求められています。製・配・販を支える情報系の共通基盤を提供するファイネットにとって、酒類・加工食品業界の皆様のお役に立てるチャンスは、ますます拡大していくと捉えています。

ファイネットの主力事業であるEDIサービスは、すでに多くの企業に共通基盤としてご利用いただいております。やり取りされるデータの件数も右肩上がりでの上昇を続けている状況です。こうした継続的な事業規模の拡大を受け、酒類・加工食品業界におけるEDIの共通基盤として、業界全体のさらなる業務効率化に貢献し、ユーザーの皆様へと様々な付加価値を還元していく取り組みを継続的に強化していきます。



代表取締役専務
久我章良

「2024年度 ご報告」 代表取締役専務 久我章良

西井に続いて登壇した代表取締役専務 久我章良からは、ファイネットの経営方針、「EDIサービス」と「ファイル配信サービス」の利用状況、EDI拡大に向けた具体的な取り組み内容についてご報告しました。

ファイネットでは、2023年4月に策定した中期経営計画の中で、「円滑なサービス運営」「顧客満足度向上」「業界貢献」という事業上の3つの目標を掲げ、それぞれに対して具体的な取り組みを推進しています。

1つ目の円滑なサービス運営は、システムの安定稼働、使い勝手の向上が重要なポイントです。お預かりした大切なデータの安全性をしっかりと担保しながら、業界の共通基盤として確実なデータ交換業務を支え続ける必要があります。ファイネットでは、利便性の向上に加え、システム障害や災害、サイバー攻撃等のリスクに備えた投資を積極的に行い、万一の事態にも万全の体制を整えています。

2つ目の顧客満足度向上については、具体的な例として「EDIサービス」と、2023年3月にリリースした「ファイル



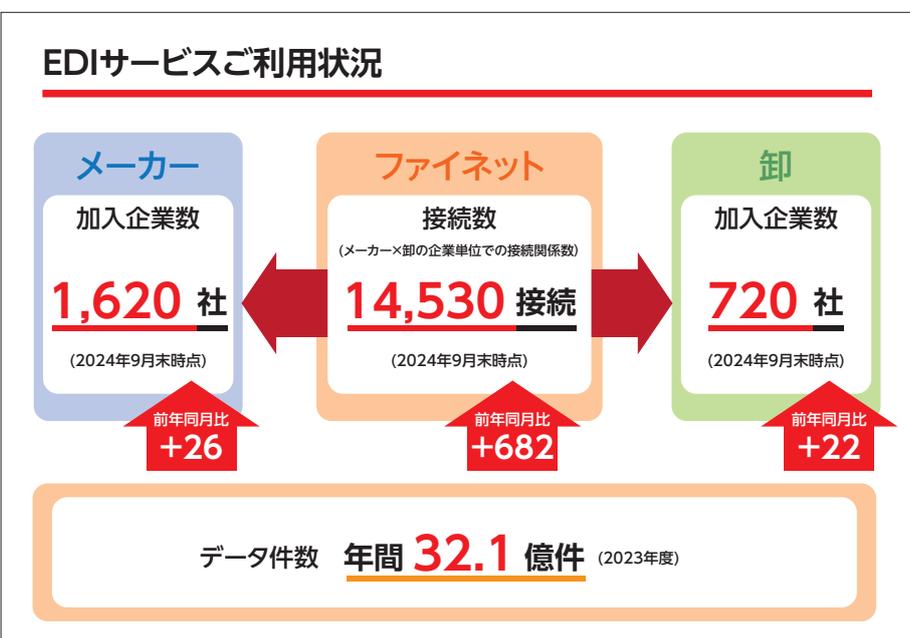
配信サービス」のご利用状況をご紹介します。

EDIサービスは、2024年9月末でユーザー数はメーカー1,620社(前年同月比+26社)、卸720社(同+22社)に上っています。メーカーと卸の企業単位での接続関係数は14,530接続(同+682接続)となり、EDIサービス上でやり取りされるデータ件数は年間32.1億件に及んでいます。

EDIについては、一層の普及に向けた取り組みも進めています。ファイネットは、卸各社がEDIの実施状況や接続希望

先を共有しながら、協働でEDIの普及を推進する「卸合同EDI普及活動」の事務局を務めています。ご参加いただいている卸様は計11社。3年半の活動を通じて、受発注で223の関係、出荷案内で68の関係が新たに生み出されるなど、着実に成果の創出につながっています。また、2024年4月からは九州に本社を構える卸3社による「九州卸合同EDI普及活動」の取り組みもスタートしました。EDIの拡大に向け、企業間で協調する取り組みが広がりつつあります。

EDIのさらなる普及促進に向け、EDI



EDI普及活動取り組み事例

卸合同EDI普及活動

～各社間でEDIの実施状況や接続希望先を共有し、協働で普及推進活動～

伊藤忠食品 加藤産業 国分グループ本社 トモシアホールディングス <旭食品 カナカン 丸大堀内 ヤマキ>
日本アクセス 日本酒類販売 三井物産流通グループ 三菱食品 企業名・五十音順、敬称略

これまでの活動(2021年3月～2024年3月)

メーカー折衝

連名での
依頼文書発信

合同説明会

etc.

EDI化実績

<受発注> <出荷案内>
223 関係 68 関係

様々な活動を実施した結果、
受発注を中心に拡大

2024年度の活動

- ① 出荷案内の拡大推進
- ② FAX発注拠点におけるEDI化の促進

サービスの機能強化も進めています。2024年9月には、卸が発注時にWeb EDI利用メーカー向けに任意のメッセージを表示する新機能をリリースしました。下請法の対象となる製造委託先へのメッセージ表示にこの機能のご利用を検討いただいている企業もあります。今後、様々なシーンでご活用いただけると考えています。

ファイネットでは皆様のEDI拡大に向けた支援として、メーカー(卸)が発注や出荷案内、販売実績、販売促進金請求/支払などのデータ種別ごとに、どの卸(メーカー)と接続を行っているかを分かりやすく示した「接続状況の一覧表」も提供しております。この一覧表は大変ご好評いただいております。新たに接続先を拡大したり、既存接続先とやり取りするデータ種を拡大したりといった取り組みに活用いただきたいと考えております。

また、EDIを拡大したいと考えているユーザー企業には、相手企業に確認の上、窓口担当者をご紹介するという対応も行っています。相手先の紹介にとどまらず、運用やテストの方法など、EDIの実現に向けた様々な調整作業も丁寧にフォローを行うことで、ユーザー企業のEDI拡大を支援しております。

もう1つご報告したいのは、紙ベースで送付している帳票、及びそのやり取りを電子化して送受信するファイル配信サービスの利用状況です。2023年3月のサービス開始以来、送信側はメーカー17社、卸14社の計31社の企業にご利用いただいております。受信側の発行ID数については約12,000、月間の配信帳票通数は約95,000通に達しています。

同サービスの特長は大きく3つあります。1つ目は、固定料金なしの従量課金制で1通30円から利用できるという極めて「競争力のある価格」を実現していること。2つ目は「EDIと同様の運用が可能」な点で、データ送信ではWebから

のアップロードの他、ホスト接続にも対応しています。3つ目は業界の商慣習にフィットした「多様な標準帳票を実装」している点です。同サービスは、より多くのユーザー様にご利用いただくことで送信側も受信側も帳票の受け渡しをまとめて行えるようになります。今後もユーザーの皆様のご意見、ご要望を取り入れながら、さらにご利用しやすいサービスに向けた機能強化を行い、共通サービス利用による業界全体の効率化を目指してまいります。

ファイネットが掲げる事業上の目標の3つ目である業界貢献については、加工食品サプライチェーンにおける統合データプラットフォーム構築の基本計画を検討・策定する、DPC(Data Platform Construction)協議会への参画をご紹介します。

物流の効率化を念頭に置き、事業所マスタチームでの、一意に場所を識別するデータベースの構築に向けた取り組みや、ASNデータを用いた次世代EDIの検討、Scope3のCO₂排出量の可視化などの検討を通じて、物流データプラットフォーム構築に向けた活動に貢献してまいります。

また、酒類・加工食品業界標準化推進会議では、ファイネットは事務局としてメーカー22社、卸8社の計30社と共に、商品識別コードや企業識別コードなど、物流関連のEDIに関わる標準仕様の整理に取り組んでいます。

ファイル配信サービスご利用状況



帳票通数

約**95,000** 通/月



利用企業数(送信側)

計**31** 社



発行ID数(受信側)

約**12,000** ID



ユーザー会の第2部として開催された懇親会の様子。乾杯の音頭は公益財団法人流通経済研究所 専務理事の加藤弘貴氏(左)にお取りいただき、中締めでは常務取締役の水上秀昭(右)から皆様への感謝の言葉をお伝えしました。

ファイネットでは、円滑なサービス運営、顧客満足度向上、そして業界貢献を事業の柱に、EDIを支える共通基盤の提供という使命を今後も引き続き果たしてまいります。

多くのユーザー企業が 情報共有を図った懇親会

ユーザー会の第1部終了後、第2部で

はファイネットとユーザー企業、そしてユーザー企業同士が親しく交わり、互いに情報共有などを図る場として懇親会を開催しました。

乾杯の音頭をお取りいただいた公益財団法人流通経済研究所 専務理事の加藤弘貴氏はDPC協議会の取り組みについて触れ、「現在、物流の拠点を共通的に示すコードは世の中になく、これから策定していくこととなるが、ファイネットが

維持管理を行っている統一取引先コードが非常に有効な資産になるものと考えている」と語りました。

懇親会の中締めには常務取締役の水上秀昭が登壇し、全社一丸となって事業の強化、業界貢献に取り組んでいく決意を語った上で出席したユーザー企業の皆様への感謝の言葉で締めくくり、2024年のユーザー会は盛況のうちに終了しました。

根拠のない自信を信じる! ～根拠はおのずとついてくる～

「根拠のない自信を信じる!～根拠はおのずとついてくる～」と題し、元ラグビー日本代表の大畑大介氏よりご講演をいただきました。大畑氏は小学生からラグビーを始め、中学、高校、大学、そして日本代表としてグローバルな舞台上で活躍しつつも数々の困難に見舞われた自らのラグビー人生を振り返り、常に自分の強みを信じ、あるべき姿を追求し続けたことを紹介。大畑氏の生き方は、ビジネスの世界に生きる者にも重要なヒントを提供するものとなりました。

大畑 大介 氏

元ラグビー日本代表
コベルコ神戸スティーラーズ
アンバサダー

1975年生まれ。大阪市出身。小学校3年生からラグビーを始め、京都産業大学へ進み日本代表入りを果たす。神戸製鋼で活躍後、オーストラリア、フランスのチームを経て、2003年にラグビートップリーグの神戸製鋼コベルコスティーラーズに復帰。日本代表キャプテンを務めるなど日本ラグビーの牽引者として、ラグビーワールドカップに2度の出場を果たす。両アキレス腱断裂を経験するも不屈の精神でリハビリを乗り越え、代表試合トライ数世界新記録を樹立。2011年の現役引退後はラグビーの普及やラグビーを通じた人材育成等で活動中。2016年には「ワールドラグビー殿堂入り」を果たした。



VAN・EDI

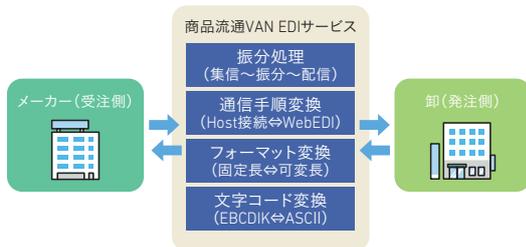
VANサービスが提供する機能とは

今回は、EDIにおける取引先ごとの個別対応を解消するためにVANサービスが提供する具体的な機能についてご紹介します。



企業のIT戦略に伴う取引情報の電子化が進む中で、企業間情報の標準化を促し、業界における業務効率化と情報の伝達速度向上を目的にEDIの基盤を提供しているのがVANサービスです。ここでは、酒類・加工食品業界の約2,300社にご利用いただいている弊社ファイネットの商品流通VAN EDIサービスを例に、VANサービスとは具体的にどのような機能を提供するものかを解説します。

商品流通VAN EDIサービスでは、根幹となる機能として、「振分処理」「通信手順変換」「フォーマット変換」「文字コード変換」があります。



複数の企業間におけるデータ交換を実現する振分処理

商品流通VAN EDIサービスはメーカーと卸間の商取引で利用されており、卸からメーカーへの発注内容を表す受発注データ、メーカーから卸への納品内容、売掛/買掛金額を表す出荷案内データ等の様々なデータをやり取りできます。これらのデータを送信元が指定した取引先に集約してお届けするのが「振分処理」です。

今回の解説者

株式会社ファイネット
システム統括部
部長代理

尾崎 圭祐

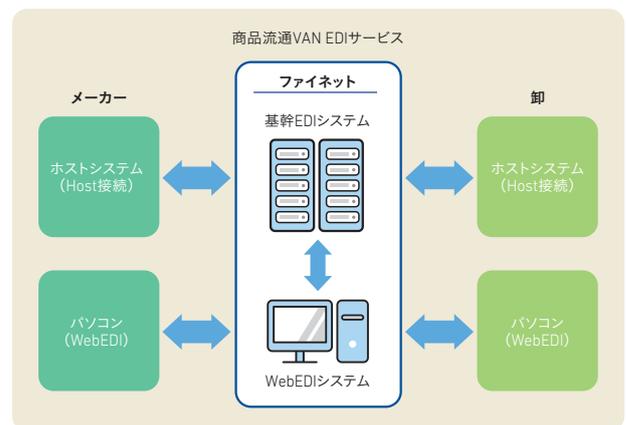


取引先のシステム環境を意識することなく 任意の通信手順、フォーマット、文字コードで送受信

さらにVANサービスでは「通信手順変換」「フォーマット変換」「文字コード変換」といった変換機能を実装しています。これらの機能により、メーカーと卸の双方が、取引先のシステム環境を意識することなく、自社のシステム環境に合わせた通信手順、フォーマット、文字コードでデータの送受信ができるわけです。

1 通信手順(接続形態)

サーバー、PC上の専用ソフトを用いて通信を行う「Host接続」とWebブラウザを用いて画面入出力、ファイルアップロード/ダウンロードを行う「WebEDI」という2つの接続形態が利用できます。「Host接続」ではJX、ebXML MS2.0、AS2、SFTP、全銀協TCP/IP手順・広域IP網等、多くの通信手順に対応しています。



2 フォーマット

「Host接続」は日食協標準EDIフォーマットの固定長、可変長(CSV、TSV)、可変長フラットファイル(CSV、TSV)。「WebEDI」のアップロード/ダウンロードでは標準フォーマット、簡易フォーマット、自由フォーマットに対応しています。

3 文字コード

「Host接続」はEBCDIK*とASCII*、「WebEDI」はASCIIに対応しています。

* EBCDIK…米IBM社が定義した文字コード体系を拡張して、半角カナを利用できるようにしたもの。Extended Binary Coded Decimal Interchange Kana Code
* ASCII…米国家規格協会によって制定された文字コード。American Standard Code for Information Interchange

FINET ANNOUNCEMENT

ファイネットアナウンスメント

FINE FINETの送付先等の変更について

ご送付しております「FINE FINET(ファイン・ファイネット)」の宛名や部数の変更等がございましたら「FINE FINET送付先変更(受付)」フォームよりお申し込みください。

お申し込み完了後、受付完了メールを申請者情報にご登録いただいた宛先に送信いたします。

なお、お申し込み内容に確認事項がある場合はヘルプデスクより別途ご連絡差し上げます。

「FINE FINET送付先変更(受付)」フォーム



URL <https://member.finet.co.jp/fts/ffSendRequest/recept>



FINE FINETは各サービスの利用窓口担当者様宛ても送付しています。担当者様の変更に伴い送付先も変更いたしますので、利用窓口の担当者情報変更や担当者変更につきましては、「手続きサイト」にログインの上「各種お申込み」からお申し込みください。サービスに関する重要なお知らせをお届けするため、ご担当者情報を最新の状態に保つご協力をお願いいたします。

「手続きサイト」ログインページ



URL <https://member.finet.co.jp/fts/userLogin/>



請求書のお受け取りは手続きサイトをご活用ください

手続きサイトでは、お届けしている請求書をPDF形式にてご用意しています。ご利用明細もデータファイル(CSV形式)にてダウンロードいただけます。

また、事前に設定いただくことで請求書の用意が出来次第メールでお知らせします。

郵送より早くご確認いただけますので、ぜひご活用ください。

【ご利用方法】

- ①手続きサイトに請求担当者様用のIDでログインしてください。
- ②画面左上部「リンクメニュー」から「請求ダウンロードWeb」を選択してください。
- ③請求データダウンロードメニューが表示されます。

手続きサイト

URL <https://member.finet.co.jp/fts/userLogin/>

※IDは登録時に請求書送付先のご担当者様宛にご案内しています。
※ID/パスワードが不明の場合はログイン画面右下「ID 再通知」「パスワード再発行」よりお手続きください。
※初回ログイン時には利用者情報編集画面が表示されますので、ご利用者様情報の入力をお願いします。

【請求書の郵送停止について】

ダウンロードの活用により請求書の郵送が不要になりましたら、手続きサイトよりお申し込みください。

申込
メニュー

各種
お申込み

ファイル
申込

請求書
郵送停止申込

口座振替支払のご案内

弊社ではお支払方法として「預金口座振替」が選択いただけます。ぜひご検討ください。

【ご利用のメリット】

- ・口座振替時の手数料は弊社が負担します
(銀行振込時の手数料はお客様負担)
- ・月々のお振込手続きが不要となり、業務の簡略化が図れます

【支払方法変更のお申し込み方法】

手続きサイトからお申し込みください

申込
メニュー

各種
お申込み

郵送申込

支払方法
変更申込

※口座振替をお申込みの場合、同一様式にて郵送停止も同時にお申し込みいただけます

お問い合わせ先

ファイネット
ヘルプデスク

0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)

森井ユカの



スーパーマーケット 漫遊記

（緑の夏も流氷の冬も 北海道の氷下魚が呼んでいる）

ご当地スーパーを巡る47都道府県の旅を2周していても、全ての食材を把握するのはとても難しい。日本は想像よりもずっと大きいからだ。それを特に身に沁みて痛感するのが北海道の広さ。一度に訪問できる地域も限られるので、都度まさに真剣勝負となる。頼りになるのは現地を歩き回る自分の足と、地元出身の友人たちからの情報なのだ。

2024年の8月の下旬に知床を旅した。2005年に世界自然遺産に登録された知床は夏は釣り、冬は流氷と観光客を惹きつけてやまない。私にとって世界中どこに行っても外せないのが、地元をよく知るためにローカルスーパーを訪ねること。こ

のときは漁師の友人と「ビッグマートみたに」を訪れた。地元の人たちと、宿で自炊をする旅行者がちょうどいいバランスで立ち寄っている。ここで初めて出会ったのが、乾燥氷下魚*（干し氷下魚）。恥ずかしながら「こまい」と読むことも知らなかったほど、今まで縁がなかった。その友人曰く、「本当に美味くて、酒も止まらなくなる」とのこと。店の人によれば、道外の人にも大人気で、いつもあるとは限らないそうなので、購入してみた。宿に戻ってたまらず開けると、ほんのりと海苔のような香りがあり、噛むほどに味わい深い。確かにこれは日本酒に合わないわけがない。たまらず一夜干しも買い込み土産に

した。一夜干しの身は軟らかく、軽く炙っただけでも十分だが、柚子をちょっとだけ搾ってみる。マヨネーズや一味をちょっと付けてもいい。酒の肴はもちろん、ごはんのおかずにも合う。地元出身の友人はおやつにたべていたというから羨ましい。

氷下魚はタラ科の白身魚で、氷の下で網を使って漁獲したことからこの名が付いたそうだ。オホーツク海から日本海まで分布は広いが、北海道東部で産卵するため根室産が多い。私が訪れた時期では早かったが、冬の産卵前の卵を抱えた時期はとびきり美味しくなるらしい。冬の氷下魚と流氷、また北海道に訪れる口実が増えてしまった。

* 地元商店で買える氷下魚には、完全に乾燥したもの（丸ごと、開き、ほぐし）と生干しがあった。



ビッグマートみたに しれとこ店

住 所 北海道斜里郡斜里町ウトロ東213
電 話 TEL:01522-4-2425
営業時間 午前9:30～午後7:00
定 休 日 毎週日曜日

文 = 森井ユカさん

立体造形家、雑貨コレクター。小さいものを作ることと愛でることを仕事にしている。著書に『おいしいご当地スーパーマーケット』『地元スーパーのおいしいもの、旅をしながら見つけてきました。47都道府県!』（どちらもダイヤモンド社刊）など多数。全日空『翼の王国』に「ニッポン47妖怪さんぽ」を連載中。

